

笑顔を咲かせよう♪

# ちゅーりっぷ 通 信

平成30年

3  
月号

いきいき暮らす、  
あの人に会いたい  
第28回

歌舞伎役者・俳優

なかむら

きちえもん

## 中村吉右衛門さん

1944年(昭和19年)東京都生まれ。早稲田大学文学部仏文科中退。八代目松本幸四郎(初代白鸚)の次男として生まれ、祖父の初代吉右衛門の養子となる。1948年(昭和23年)、中村萬之助を名のり初舞台。1966年(昭和41年)10月二代目中村吉右衛門を襲名。養父・初代中村吉右衛門と実父・松本白鸚の芸風を見事に継承し、現代歌舞伎を代表する立役の一人となる。1989年(平成元年)から28年間続いた時代劇「鬼平犯科帳」では、主人公長谷川平蔵役を演じ、お茶の間の人気者となった。2002年(平成14年)日本芸術院会員、2011年(平成23年)重要無形文化財保持者(人間国宝)、2017年(平成29年)文化功労者。

東京都 ホテルオークラ東京にて

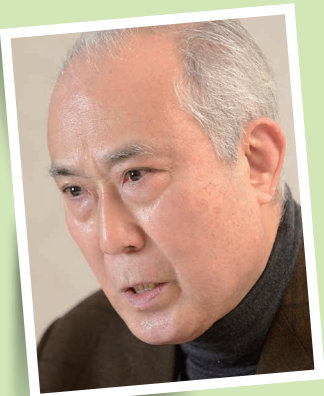
当代随一の歌舞伎役者と名高い吉右衛門さんも、若いころは大変苦しい時期があったと伺いました。

人生は山あり谷ありと申しますが、簡単にスーツとエスカレーターを登るような人生なんていうのは本当にごく一部の方だけで、ほとんどの方がえっちらおっちらと懸命に階段を登っていく、または登れない方だっというしゃいます。それが普通の人生だと思っんです。ぼくの場合だつて、そういう意味ではみなさんと変わらな普通の人とも言えます。自分で決めたわけでも、なりたくてなつたわけでもなく、神様がぼくにそういう運命を歩けと下されたのかどうかわかりませんが、とにかく初代吉右衛門という大変な名優の養子になることから始まります。

敗戦後の荒廃した日本で、歌舞伎は人々の精神的な拠り所でありました。それは、東京大空襲で焼けてしまった歌舞伎座の代わりに、奇跡的に戦禍を逃れた東劇(東京劇場)で終戦後すぐに歌舞伎の上演が再開されたことからわかると思います。

そうした中で、ぼくが4歳のときに初舞台を迎えます。初代自身が舞台で「こいつを養子にして後を継がせる」と口上で述べてくれました。それがぼくにあって、

一番晴れがましいといつか、「この子が吉右衛門の後継なんだ」と、世間のみなさまがぼくという存在を知ってくださつた





瞬間でした。当時は吉右衛門劇団というものがあり、初代は座頭でトップ、ぼくはその後を継ぐ人間ですから、変な言い方ですけど、初代が「王様」で、ぼくが「王子様」という感じです。ところが数年後、初代が亡くなると急転直下、本当に文字通り奈落の底へと落ちてしまいます。それまでは「若旦那」と呼ばれていたのが、「バカ旦那」と言われるほどに。山あり谷ありと言いましたけど、ぼくはこんなふうに崖にいたような感じで、そこを這い登って、なんとか今日に至るといのが正直なところですよ。

**それから大変な葛藤や焦燥の中で青春時代を過ごされたそうですね。吉右衛門襲名までのことをお聞かせください。**

そもそも、ぼくは自分で「役者には向いていない」と思っていたんです。ちよつと汚い言葉ですけど、役者の条件として「画、二声、三上手」と昔から申します。役者の第一はまず顔で、次が声、三番目に演技力という意味ですが、ぼくはまず顔が役者顔ではありません。役者顔というのは錦絵にあるような顔のごとくですからね。それから声。いまでこそ清元のお稽古でこれだけ出るようになりましてけど、当時、ぼくは早く声変わりが来てしまって、それでも一生懸命出さなきゃいけないと思いがんばっていたんです。でも、ついに喉を壊してしまって…襲名後もなかなか声が出ない状態でした。さらにぼくは、当時としては背が高すぎて、ひよろひよると痩せていました。これはまったく歌舞伎の舞台、

衣装とは合わない。最近でも時代劇でたまに若い人が出ると袴が全然似合ってなくて、帯の位置が変な場所にあたりたりしますけど、そういう感じで、とても舞台で見られたものじゃありません。ついでに、体も弱くて体力もまるでない、ないない尽くしです。残すは上手ですけど、当然上手になるには時間がかかるわけですよ。

それで襲名前の19歳でしたか。小学校からフランス語を習っていたことや、すでに早稲田の仏文科に入學して勉強をしていたこと、そしてとてもと絵を描くのが好きだったということも少しあって、ある日「役者を辞めてフランスに留学したい」と実父の初代白鸚に話をしました。そうしたら実父は「何にでもなつちまいな」とくるつと背を向けてしまったんです。実父は芝居のことでも、人生のことでもあれこれ言ったり、上手なことを言ったり褒めたりするよう人ではなく、とにかく寡黙な人でした。「何にでもなつちまいな」、そう一言だけ言ってみせたその後ろ姿に、ぼくは「吉右衛門を継がせたい」「高麗屋の芸と播磨屋の芸をそれぞれに継がせたい」という実父の誠実な思いと責任感を強く感じました。「これは辞めてはいけないな」と思いましたね。

とは言え、吉右衛門を継ぐんだという自分の思いとは裏腹に、取り巻く環境、現実はなかなか厳しいものが続いて、そのギャップに相当悩みました。飲めないアルコールと薬に頼る毎日で、とうとうある晩救急車で運ばれたこともありました。襲名をきちんと考えたきっかけは、初代吉右衛門

小学校からそんな勉強をしようらやまして」と言われたことがあるんです。なるほど！と思いましたが。例えば外国の映画を見ているもキリスト教を通してなんとなく背景を知っているから、スーツと入って来るんです。そういう経験も、歌舞伎とはちよつと異なりますが、見聞を広げるにはとても良かったかなと思います。

**初代吉右衛門ゆかりの演目を上演する「秀山祭」はどんなお気持ちで始められたのでしょうか。**

役者といつのはいくら名優であっても、生きている間しかお客様と交流できません。いなくなってしまうえば、いくら心の中に強く残っていて思ってくださいいても、だんだんだんだん忘れ去られていく。寂しいけれども、それが役者なんです。でも、團十郎、菊五郎と言つと教科書にまで載っていますから、「歌舞伎は見たことがないけど『團菊』なら知っている」という方も中にはいらつしゃいます。ところが、大変残念なことに吉右衛門は知られていないんです。明治、大正、昭和と時代を経て、今これだけ歌舞伎が残っているのは初代吉右衛門がいたからこそと言つても過言ではないとぼくは思っています。それで、ぼくが62歳のとき、2006年9月に初代の生誕120周年を記念して、初代がどういふものを作って後世に残してくれたのか、初代を知らないお客様にも知っていただけるように、「秀山祭」を始めました。秀山というのは初代の俳名です。以来、毎年9月にこの「秀山祭」を行つていて、これもまた、二代目を継いだばかりの仕事のつだとお思っています。初代の舞台に対する

の家にお手伝いとして住み込み、ぼくたち兄弟の世話をしてくれた、ばあやの死でした。体調を崩し入院をしていた、ばあやが、看病をしているぼくに「吉右衛門を継いでくださいな」と言ったんです。ぼくが21歳のとき、ばあやがは亡くなります。そのとき改めて吉右衛門を継ごつという気持ちになつたんです。ばあやの思いに背中を押されて、吉右衛門襲名はぼくの義務であり、天職なんだと思ひ定めました。

**ちよつと絵のお話も少し出しましたが、「播磨屋画がたり」(毎日新聞社)や「半ズボンをはいた播磨屋」(PHP文庫他)などの著作、そして松貫四のお名前で歌舞伎の脚本も執筆されており、文才や画才もおありです。**

いやいや、そんなたいしたものではなく、幼少のころから体が弱かったので絵を描くのが好きだったというだけです。本当のことを言いますと、ぼくは



姿勢や歌舞伎への思い、そして初代の芸と魂を次の世代へつなげていこうという思いでやっています。

**さまざまな困難を乗り越え、いまや歌舞伎界を代表する立役となられた吉右衛門さんですが、これからチャレンジしたいことはありますか。**

これからやりたいことは、とにかく歌舞伎をどんどんどんどん続けていきたいということに限ります。あと、休みがあれば海外にも行きたいですね。歌舞伎の公演は25日間、その前に稽古の時間がありますから、ひと月丸々休みなしなんです。若いころは1日何幕も出たり、2年間1日も休みなしということもありました。いまは働き方改革と言われていた時代です。そういつことはありませんけども(笑)でも、海外に行つてもやっぱり歌舞伎かな…。パリのオペラ座で歌舞伎ができれば最高ですね！スポンサーさんがいてくだされば、今すぐにもお願いしたいくらいです(笑)

初代は亡くなる直前まで大役を何本もやっています。役者は舞台に出こそ初めて役者と認められるわけですから、ぼくもまだまだこれから80歳、90歳まで歌舞伎を続け、みなさんに歌舞伎の素晴らしさを伝えていきたいと思っています。

歌舞伎座は車椅子の方でもご覧いただけます。自由席になります。お好きな幕だけをご鑑賞いただける「幕見席」もありますので、初めての方もどうぞお気軽にお越しください。お待ちしております。





# 遠い思い出、なつかしい歌

作詞 高野辰之  
作曲 岡野貞一

## 朧月夜

子どもの頃、菜の花畑はいまよりずっと身近にあるものだったね。いつのまにか全国的に作付面積が減り、この歌のように、菜の花までおぼろげな光景になってしまいました。



菜の花畑に 入日薄れ  
見わたす山の端 霞、ふかし  
春風そよふく 空を見れば  
夕月かかりて にほひ淡し

里わの火影も 森の色も  
田中の小路を たどる人も  
蛙のなくねも かねの音も  
さながら霞める 朧月夜

### 歌のこぼれ話

春の夜に月がほのかに霞んでいる朧月夜という情景の美しさは、日本人の心の遺伝子に組み込まれているのでしょうか。そう思ってしまうほど、春の宵を歌ったこの歌は、大正3年に尋常小学唱歌として登場して以来、しみじみとした情感をわたしたちの胸に呼び起こしてくれます。そういえば、いにしへの源氏物語にも朧月夜という名の女性が登場するのです。あまり見かけなくなった菜の花畑ですが、こちらはいまでも神奈川県二宮町の吾妻山公園で6万株もの菜の花が楽しめるそうです。その菜の花にちなんで、東海道線二宮駅では発車メロディとして朧月夜が奏でられているのだとか。

JASRAC 出1804024-118

## すこやか生活 ワンポイントレッスン



### 伝統芸能を楽しみませんか

歌舞伎や文楽、落語といった古くから伝わってきた伝統芸能は、酸いも甘いも噛みわけてきた大人だからこそ楽しめるもの。さいわい横浜は歌舞伎座のある東京銀座にも近く、寄席のにぎわい座もあります。もっと気軽に伝統芸能に親しんでみませんか。

## 歌

舞伎や文楽、落語などは、何百年ものあいだ、わたしたち庶民と喜怒哀楽をともにしてきた伝統芸能です。そこで演じられたり、語りたりしている物語は、いずれも日本人にとっては皮膚感覚で共感できるようなものばかり。ハードルが高いと感じている人も、ひとたび歌舞伎座の中に入ってみれば、そこは古くから人びとを魅了してきた芝居小屋の興奮が感じられる空間であり、偶然観た演目であっても、たちまちその芝居の世界に引き込まれてしまうでしょう。

そこで演じられる苦悩や絶望の悲劇は、荒唐無稽のようであっても観客一人ひとりの人生と響き合うからこそ、これだけ長く愛されてきたにちがいありません。ぜひ、歌舞伎座まで足を運び、華やかな舞台と幕間の楽しさを味わっていただきたいと思えます。

今回のインタビューでは「代目中村吉右衛門さんにご登場いただきました。歌舞伎役者として精進を重ねて



こられた中村吉右衛門さんのお話に感動された読者の方も多いのではないのでしょうか。これをきっかけに人間国宝でもある吉右衛門さんの芸に触れていただければと思います。

また落語という伝統芸能も見逃せません。横浜の野毛には、にぎわい座という寄席があり、発展途上にある若手の噺家から真打ち名人まで、さまざまな話芸を楽しむことができます。歌舞伎が役者、衣装、舞台、音曲とそろった総合的な伝統芸能であるのに対し、落語は噺家の話芸だけです。だからこそ、かえって目に浮かぶ情景にひきこまれます。いずれも生で見る芸の素晴らしさを、ぜひお楽しみください。

## 介護と暮らしのアイデア箱

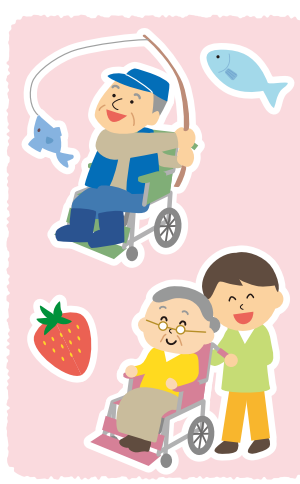


### 車イスで春のお出かけ「一緒にデートしよう！」

待ちに待った春がやってきます。暖かな春の日差しを浴びてお出かけしませんか？今回は車イスでも楽しめる横浜市内のレジャースポットをご紹介します。

#### ●いちご狩り「ゆめが丘農園」

横浜市内でフルーツ狩りができる場所はいくつかあっても、駅から遠い、バリアフリーではない、というお話もよく耳にします。今回ご紹介する「ゆめが丘農園」は、相鉄いずみ野線ゆめが丘駅と横浜市営地下鉄下飯田駅から、いずれも徒歩10分圏内で好アクセス。子どもの目の高さくらいにいちごがなるように、少し高い位置で栽培されていますので、大人も立ったままで楽にいちご摘みができます。足下に敷かれたシートで靴も汚れることもありませんし、園内はバリアフリーですので車イスでもいちご狩りをたっぷり楽しむことができます。今年はいちご「べにほっぺ」など4種のいちごが実っており、料金は一人1500円〜2000円



(※季節によって異なります)。5月20日までの毎週土・日と祝日の10時〜15時に実施しています。

【予約問い合わせ】ゆめが丘農園  
〒245-0007  
横浜市泉区下飯田町1653番  
☎090-022639154300

#### ●海釣り「船宿「忠彦丸」」

金沢漁港から出船する釣り船「忠彦丸」は、事故や病気で足が不自由な方にも趣味や気晴らしで釣りを楽しんでもらいたい、という思いで、車イスの方にも楽しんでいただけるようにバリアフリー釣り船を導入しています。初心者でも経験者でも、レベルを一切問わずに誰でも快適な釣りができるようサポートも充実していて、初めて海釣りを体験するという人でもOKとのこと。料金は、乗り合い 半日6500円、釣物によつて所要時間や料金も異なりますので、電話でご確認ください。

【問い合わせ】船宿「忠彦丸」  
TEL 03-0001-3  
横浜市金沢区海の公園9番地金沢漁港内  
☎045-1701-30806

## 今月のクイズ



### 歌舞伎のことばを探してみよう！

盤面の中にはリストのことばが隠れています。1つだけ使わないことばはなんでしょうか？

う	い	ふ	か	じ	だ	い	も	の	ず	ん	め	せ
ご	ぱ	け	は	こ	け	ら	お	と	し	た	く	ん
や	せ	な	ん	め	う	し	た	も	な	ち	ま	り
ま	み	み	い	べ	よ	ぜ	い	み	く	た	ろ	よ
ち	く	ま	お	う	ち	え	た	み	ま	が	く	う
く	ん	あ	ね	か	ん	み	に	え	つ	な	ぼ	や
さ	ろ	ん	い	や	じ	ど	つ	め	べ	は	な	く
も	ば	ご	こ	こ	ん	ゆ	く	ひ	の	ろ	だ	し
ん	ち	は	う	で	か	じ	ぎ	と	や	く	が	や
え	お	じ	ん	な	せ	い	ち	ま	つ	も	よ	う
り	よ	が	ぐ	り	ち	う	の	く	ま	ど	り	ぷ
う	え	お	お	む	こ	う	ぷ	み	ら	ん	も	か
し	の	も	わ	せ	し	ゆ	う	め	い	な	て	に

歌舞伎のことばリスト

せりみえ  
おはこ  
やごう  
りえん  
くろご

かもん  
ならく  
がくや  
せんけい  
せわもの  
はなみち

くまどり  
かおみせ  
にまいめ  
はながた  
まくあい  
くろまく

しゅうめい  
ひとまくみ  
じだいもの  
さんまいめ  
まくのうち  
いたにつく  
おおむこう  
こうじょう

こけらおとし  
しょうねんば  
かんじんちよう  
いちまつもよう  
どんでんがえし  
のべつまくなし  
せんりようやくしや

NHK大河ドラマ「武蔵坊弁慶」で中村吉右衛門さんを見たのが約30年前。最終回、衣川の合戦で長刀を杖に、文字通りからだを張って主君義経を守りきった姿に涙したことをいまでも強く覚えてます。実際にお目にかかった吉右衛門さんは、弁慶のように雄々しく、そして優しく、どこまでも人の大きさを感ずるような温かい方でした。前日まで壽新春大歌舞伎に出演していらして、大変お疲れでいらしたと思うのですが、快く取材に応じていただきました。

●ご苦労を感じさせない艶やかな笑顔の杉田かおるさん。お母様を支える充実感がうかがえました。私は肩間にしわを寄せて介護してましたから、ヘルパーさんに入ってもらってやっと気持ちに少しゆとりができました。杉田かおるさんの小さいころからの達者な演技をテレビで見ているので、とてもいい大人の女性に成長された姿を拝見し、親戚の気持ちで書いています。これからも気張らずに頑張ってください。(港南区N様ご家族様)

●同居の長女からお母様の悲報を聞きました。杉田さん、こればかりは仕方のないお約束のことなので、落ち込みすぎないでください。私も常々長女や孫たちに「順縁りのお約束」を言い聞かせています。またどんどんテレビに出てくださいね。(保土ヶ谷区H様)

●今回のクイズは無数に答えがあるのでぜひぶんと楽しめませう。正月に遊びに来た親類の子どもが「歌」コーナーの題名の「いちげついちじつ(一月一日)」を見て「マジカー！」を連発してましたが、実はわたしも「いちがつついたち」と思っていました。しまったかぶって「そうよ、勉強になったでしょ」と正月早々見栄をはりました。(鶴見区S様ご家族様)

皆さまからのお便りをお待ちしています。

編集部では、ご意見、ご感想、とりあげて欲しいテーマなど皆さまからのお便りをお待ちしています。お便りをくださった方の中から、**抽選で5名様に薄型ルーペをプレゼント**いたします。ふるってご応募ください。

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階  
横浜市福祉サービス協会「ちゅーりっぷ通信」編集部



クイズの答え

にまいめ

今月の協会ニュース

新鶴見ホームにおいて昨年11月ドイツの新聞社、今年1月カナダのテレビ局からトヨタ自動車が開発を進めている生活支援ロボットのの実証実験について取材がありました。協会は経済産業省による高齢者の自立支援、介護者の負担軽減を図るための「ロボット介護機器開発・導入実証事業」の「ロボット介護推進プロジェクト」に参画しています。この生活支援ロボットのほか、移乗移動機器などを全老人ホームで性能、安全性、効果測定等のモニタリングを行い、介護のプロとして意見をメーカーに届け、実用化の改良に結びつけています。



前号でお伝えしました「ちゅーりっぷ通信」は平成30年度からの新装発行準備のため、少しの間休止をいたします。皆様に「再開」を期して編集部「頑張ります」。

介護者のための相談電話

介護に疲れたとき…**ほっとライン**

介護に疲れて行き詰まったり、不安になったりしたとき、ひとりで悩まないで、ほっとひと息ついてみませんか？

☎045-227-1718

「お客様相談室」をご利用ください

「お客様相談室」では、事業やサービスについてのご意見やご要望をお受けしています。まずはお気軽にお電話ください。

☎0120-701-782 FAX 045-227-1721

※受け付けは年末年始および祝日を除く月曜～金曜の8:45～12:00/13:00～17:15まで。ご相談の秘密は厳守いたします。

協会の理念

- お客様の満足
- 人を大切にし共に育ちあう企業風土
- 公正で透明感のある企業倫理

社会福祉法人 横浜市福祉サービス協会

〒220-0021 横浜市西区桜木町6丁目31番地 6階

☎045-227-1700 FAX 045-227-1701

ホームページ <http://www.hama-wel.or.jp/>

